

足を運ぶことの大切さ

手束 信吾 (栃尾教会)

去る6月18日(月)から21日(木)にかけて、新潟地区から送り出されて、宮古教会内に置かれているYMCA宮古ボランティアセンターにてボランティアをしてきました。今回は新潟教会の川村邦彦さんと藤井尚治さんと3人で行きました。途中、川村さんの畑で採れた野菜を届けるために会津放射能情報センターに立ち寄りしました。そこで、片岡輝美さんから会津放射能情報センターの取り組みと、福島の方々が抱えている苦しみや不安についてお話を伺うことができました。新聞やテレビでの報道だけでは知り得ない福島の現実を教えてくださいました。やはり直接現地に伺い、生の声を聞かせていただくことの大切さを思わされました。



その後、宮古へと車を走らせ、夕刻に宮古教会に到着しました。その日の夜、津波が襲った時の宮古の様子のDVDを見ながら、震災直後から現在に至るまでの宮古の状況をYMCAのスタッフの方から説明していただきました。現在、宮古市街には瓦礫の山をほとんど見つけることができず、いわゆる力仕事のボランティアは終息していること、今は仮設住宅への訪問と炊き出しが働きの中心となっているとの説明を受けました。昨年秋に宮古を訪れた時とはYMCAスタッフの顔ぶれが変わっていましたが、今回お会いしたお二人も1年を通して宮古に留まって働かれるとのことでした。前任者からの引き継ぎもしっかりとなされ、地域の方々からの信頼を得ている様子を見させてもらいました。今回、私たちに与えられた主な活動内容は、仮設住宅の訪問でした。私たちの訪れた週末に、ある仮設で「焼きそば大会」が行われる予定でしたので、その案内を一軒一軒、顔と顔を合わせて案内しつつ、仮設に入居されている方々の様子をうかがうということをしていただきました。また、仮設の集会所で、その自治会長さんや社協の職員さんとの交わりを通して、現時点でのニーズや御苦勞などをお聞きすることができ、有意義な時でした。自治会長さんがプランターで野菜を栽培しておられたのですが、川村さんがいろいろと野菜作りの手ほどきをされ、会長さんとても喜んでおられました。これからは、このような働きが求められているのだなあと感じました。川村



さんも藤井さんも後期高齢者(ご本人たちの弁)なのですが、被災地にはそのような方々も多く、お話し相手にはそのような年代の方のほうが、過ごしてきた時代が同じであり、色々と共通の話題などもあったりして、お話しされる方もリラックスされているようでした。被災地においてボランティアに求められる力仕事というのは、ほとんど無くなってきていますが、私たちが被災地を訪れ続ける意味はますます大きくなるのでは?と感じながら、帰路につきました。

原発事故の中での宣教を考えよう～教区宣教総合協議会へのお招き～

熊江 秀一（宣教部委員長・支援委員）

教区宣教総合協議会を7月16日（月・祝）に大宮教会を会場に行います。今年度は東京電力福島第一原発事故による放射能汚染に直面する中での教会の宣教について協議します。

震災から約1年4ヶ月、建物被害に対する再建計画が少しずつ始まりしました。すべての被災教会の復興がなる時まで、共に祈りを合わせていきたいと思えます。しかし建物の再建に加え、原発問題はこれからの私たちの生き方を左右する課題として問われています。

教区宣教部は今年3月11日に宣教部「原子力発電所からの脱却を求める関東教区声明」を出しました。被災教区であり放射能被害に直面する関東教区が、また二つの原発がある地に住む私たちが、信仰の視点から、脱原発の声を上げることが大切であることと示されたからです。この声明は5月の関東教区総会で常置委員会付託となり、6月の常置委員会にて修正の後、可決されました。

今回の協議会はその具体的な第一歩です。「農を守る・子どもを守る」というテーマを通して、神の御心を求め、何が神の前に喜ばれることか、そして私たちが神の前にどのように生きるかを共に協議したいと願っています。講師として荒川朋子さん（アジア学院副校長）、片岡輝美さん（会津放射能情報センター代表）をお迎えします。地震・放射能汚染の中でアジア学院が取り組んで来たお働きを通して、また片岡さんが教会の中で取り組まれたお働きを通して、私たちも原発事故の中での宣教を考え、これからの生き方を話し合いたいと思えます。多くの方々のご参加をお待ちしています。

日時：7月16日（月・祝）午前10時～午後3時、会場：大宮教会

テーマ：「農を守る・子どもを守る」

－東日本大震災による東京電力福島第一原発事故の中での宣教－

講師：荒川朋子さん（アジア学院副校長）、片岡輝美さん（会津放射能情報センター代表）

申し込み先：松井初宣教部書記（7月10日まで）

☆感謝のお便り☆

2012年4月13日に行われた教区「東日本大震災」被災支援委員会では、被災信徒宅へお見舞いをすることを決め、お送りいたしました。お見舞いへの感謝の言葉が、届けられましたので、一部をご紹介します。

- ・なんとか、家の修理が終わり、ほっとしております。お見舞い金をいただき、ありがとうございます。（勝田教会信徒）
- ・久保田先生より皆様の深い愛に支えられている「お見舞金」を戴きました。今迄どんなに願って出来なかった一番大事なことに使わせてもらえるのが大変嬉しいです。深い優しさに感謝します。（鹿島教会信徒）
- ・一年後にやっと順番が来て修理した家の壁紙が、大きな余震でまたまた亀裂が入ってしまいました。でもめげません！主の励ましと恵みを信じて。（鹿島教会信徒）
- ・住む所さえ無くした方もおいでなのに。私たちにもお心遣いをいただきありがとうございます。主に従って生きる教会の一員として、支えて下さった皆様の気持ちに感謝して。（水戸中央教会信徒）